図書だより

広島県立福山葦陽高等学校図書館
第7号（№43）　平成26年2月10日（月）

「本の中に答えがある」というのは，やっぱり一種の欲張った思い込みで，答えは，「本を読む自分の中」にしかないものなのである。

（橋本治『失楽園の向こう側』）

僕が，僕の小説の中で描きたかったことのひとつは，「深い混沌の中で生きていく，個人としての人間の姿勢」のようなものです。

（村上春樹『夢を見るために毎朝僕は目覚めるのです』）

あのな，大人の役割は，生意気なガキの前に立ち塞がることなんだよ。煩わしいくらいに，進路を邪魔することなんだよ。

（伊坂幸太郎『オー！ファーザー』）

読書の楽しみは，本を読む人それぞれです。３人の小説家の作品から，素敵な表現を引用しました。自分にとって，かっこいい一節を見つけることも読書の楽しみの一つです。

図書の返却について

期限を超過している人は，早急に返却して下さい。１年生でリードプランの資料として借りている人の多くが未返却です。３年生も２月中に持参して下さい。

読書と私
数学科　山口先生

不定期ではありますが，本校の教職員にインタビューを行います。記念すべき第１回は数学科の山口先生にお願いしました。

― 山口先生，よろしくお願いします。
こちらこそ，よろしくお願いします。でも，最近はあまり読んでいないのでねえ。
― 好きな作家はいますか。
夏目漱石が好きですね。『三四郎』『それから』『門』あたりはいいねえ。
― 授業では『こころ』を扱うのですが，それを機に全部読んで見ようと思う生徒も以前に比べると減りました。
それはもったいないね。あんなに面白いのに。でも，私もほんとうに漱石を読み出したのは２０代以降ですから，現在高校生の皆さんは，これからいくらでも読むチャンスはあると思いますよ（なお，２年後は漱石の没後１００年です）。志賀直哉の『暗夜行路』もいいですね。尾道も物語の舞台の一つになっています。鳥取県の伯耆大山に登ったときの夜明けのシーンは，高校の教科書にも載っていたのでよく覚えています。他に好きな作家といったら，松本清張，藤沢周平，新田次郎，城山三郎といったところでしょうか。これらの作家の作品は映画やテレビドラマなどにも数多く取り上げられていて，先に映画を見てから小説を読んだりしたものもあります。最近の作家では，吉田修一の『悪人』が映画，小説ともども面白いものでした。
― 山口先生，ずいぶんお読みになっているじゃないですか。
最近は本を読みたいのですが，実際にはなかなか読めません。小説の舞台となっているところなどを，いつかは訪れてみたいと思っているのですが……。これからの楽しみです。ところで，昨年こんなことがありました。『置かれた場所で咲きなさい』という本の著者渡辺和子さんの講演会が尾道で開催されるということで，電車に乗ったときのことです。なんと私の乗りあわせた車両に恐らく渡辺さんと思われる方が乗っておられました。つい，「本日講演される渡辺さんですか」と声をかけてしまいました。講演される方にこんな形で出会ったのは初めてのことでした。本との出会いでもあり，筆者との出会いでもありました。ともあれ，自分の面白いと思った本に出会えると，格別の時間を過ごしたような気になります。年に何回かそういう体験ができればいいなあと思っています。
― 山口先生，貴重なお話をありがとうございました。

【　新刊図書のごあんない　】

◎　**海堂尊　ガンコロリン**

『チーム・バチスタ４』がテレビで始まりましたね。同じ原作者による医療エンタテイメントです。未読の人は『チーム・バチスタの栄光』も併せてどうぞ。

◎　**和田竜　村上海賊の娘（上巻・下巻）**

『のぼうの城』で一躍有名になった作者の最新作。合戦シーンが話題を呼んでいますよ。人気作なので，読みたい人は早めに図書館へ。

◎　**きたやまようこ　なかよし取扱説明書（犬式）**

絵本と呼んでいいのかどうか，判断に迷うところです。おもしろくて，哲学的で，まあ一度手に取ってみて下さい。

◎　**家入一真　１５歳から，社長になれる。**

人が生きる方法はいろいろあることが分かる本です。東京都知事選挙に立候補していたことを知っていますか。

◎　**朱野帰子　駅物語**

東京駅を舞台に，鉄道会社の職員と駅利用者との心温まる交流物語。駅を見る目が変わるかもしれません。

◎　**黒川祥子　誕生日を知らない女の子**

さまざまな虐待を受けた子供たちと，支えようとする大人たちの現実を丁寧に取材した一冊。将来保育士や教師をめざす人はぜひ読んでください。

◎　**重松清　赤ヘル１９７５**

１９７５年はカープ初優勝の年。広島市内に住む中学生を主人公に優勝への一年を描いています。当然のことながら，広島弁満載。

◎　**古市憲寿　絶望の国の幸福な若者たち**

筆者はまだ２０代の若者。マスコミによく登場します。川越シェフに似ています。内容は，若者にこそ読んで欲しい現代日本の状況についてです。

◎　**中森明夫　午前３２時の能年玲奈**

写真集ではありません。『あまちゃん』をはじめ，マスメディアに関する様々な問題についての評論です。

【　図書館の住人のおすすめ本　】

山口先生に紹介していただいた本です。

夏目漱石『三四郎』新潮社

熊本の高等学校を卒業して，東京の大学に入学した小川三四郎は，見る物聞く物の総てが目新しい世界の中で，自由気儘な都会の女性里見美禰子に出会い，彼女に強く惹かれてゆく。青春の一時期において誰もが経験する，学問，友情，恋愛への不安や戸惑いを，三四郎の恋愛から失恋に至る過程の中に描く。

吉田修一『悪人』朝日新聞社

なぜ，もっと早くに出会わなかったのだろう――携帯サイトで知り合った女性を殺害した一人の男。再び彼は別の女性と共に逃避行に及ぶ。二人は互いの姿に何を見たのか? 残された家族や友人たちの思い，そして，揺れ動く二人の純愛劇。一つの事件の背景にある，様々な関係者たちの感情を静謐な筆致で描いた渾身の傑作長編。

渡辺和子『置かれた場所で咲きなさい』

置かれたところこそが，今のあなたの居場所なのです。咲けない時は，根を下へ下へと降ろしましょう。時間の使い方は，そのまま，いのちの使い方なのですよ。置かれたところで咲いていてください。結婚しても，就職しても，子育てをしても，「こんなはずじゃなかった」と思うことが，次から次に出てきます。そんな時にも，その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。